

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 1月号

2016年1月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 5171

FAX (098) 864 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：山里 恵（南部徳洲会病院）

## 医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修参加報告

大浜第二病院 安慶名真樹

平成27年11月16日(月)～11月20日(金)に、国立保健医療科学院で「第二回医療ソーシャルワーカーリーダーシップ研修」が開催されました。経験10年以上の現任者で、各都道府県から50名の参加者がおり、沖縄県からは私と嶺井第一病院の井上さんが参加したので、その報告をします。

初日の「医療現場のプロジェクト評価」では、普段の業務をこなすだけでなく、きちんと評価し活動を活性化・効率化させていくPDCAサイクルの方法論を学び、「地域包括ケアの展開」では、地域ケアシステムの構築に向けたビジョン・目標を、自分たちの言葉で表現し共有することを目標に講義とグループワークが行われました。2日目は、「期待されるソーシャルワーカー像」「ソーシャルワークの倫理と人権擁護」で、特に「倫理と人権擁護」では、事例を用いてグループワークをしましたが、どの展開になっても倫理的ジレンマを感じることを実感し、私たちの仕事はいつもジレンマを抱える業務だからこそ、ソーシャルワークの価値・倫理を根底に働きかけなければならない、ということがあらためて実感できました。

3日目の「地域におけるソーシャルワーク」の講義とワークでは、ロジックモデルを用いて企画立案の方法を学び、「ソーシャルワークのリスクマネジメント」では管理者のリスク管理をワークしました。業務管理の問題の定義、目標の設定、方策の決定を本人の問題と職場の問題にわけて検討し、管理者のマネジメントの視点を学ぶことができました。4日目の「他職種との協働・チームワーク」では、チームに求められる応用力・行動力(コンピテテンシー)について学び、メンバー個人さえよければいいチームというわけではないことを講義してもらいました。このグループワークは一番印象的で、「役割ゲーム」の中で、管理者はもちろんの事、中間管理職、一般職員にいたって、その役割がきちんと機能するために、各人に求められる行動力や、チームとして求められる行動力があるのだということが実感できました。また、組織が機能するためには共通の目標が明確化され、指示、命令、連絡、報告、相談がいかに連動することが必要か、ということも強く実感できました。「スーパービジョン」では、スーパービジョンの基礎を理解し、体制づくりの必要性を学びま

### CONTENTS

研修報告、九州大会報告	1~4
定例会報告	4
理事会議事録	5~6
研修部予定	6
福祉の窓・コラム	7~8

した。

最終日は、初日で学んだ論理的な提案方法 M E C E (ミーシー) を用い、グループで「地域連携」における問題設定、原因分析、対策・実施、評価について午前中 3 時間で意見の集約、展開、パワーポイントでの資料作りを行い、午後は全グループの発表をしました。作業工程を通して、この研修で学んだことが集約されていることを感じました。

日々のミクロレベルで行っている個別支援で用いる視点や技術を、メゾレベルの組織の中でも発揮し、マクロレベルの地域や政策へも発展させ、私たちの知識、技術をもっと地域へ活かせるよう、発信していかなければならないと思いました。初日から午前、午後共に講義 グループワークの繰り返しで、たくさんの仲間と交流が持てました。楽しい飲み会も満載で(週の半分?)、熱く語り合い、帰りは電車を間違え反対方向へ行ってしまう、2 時間かけて帰宅し夜中の 1 時にホテルに着くほどでした(笑)。皆さんもぜひ、リーダーシップ研修を受けてくださいね。

## 第 52 回 九州医療ソーシャルワーカー研修会さが大会 参加報告

北中城若松病院 香村真範

「地域で暮らすを支える 第 3 幕 ～地域包括ケアとソーシャルワーク～」をテーマに、H27 年 11 月 21 日(土) - 22 日(日)の 2 日間、佐賀県武雄市にて行われました。

1 日目の午前は、樋口さん、望月さんと一緒に「九州協議会・教育研修部会合同会議」に参加しました。ここでは、協議会の運営、全国会長会の報告、各県の研修部の活動報告などがありました。重たい雰囲気の中、それぞれの思惑が見え隠れし会議でした。

午後の部では、「求められる医療の視座 ～地域包括ケアの構築に向けた専門職の役割～」と題して、古都賢一氏(独立行政法人国立病院機構 副理事長)による特別講演に参加しました。2025 年問題、地域包括ケアがなぜ必要か等をわかりやすく講演いただき、その中で、「福祉サービスの本質は何か?」、それは「人が人に対して支援すること」という言葉がありました。多様なニーズをどう自己実現していくか。そのために、チーム医療があり、多様なコミュニケーションがあるが、クライアントとの“直接コミュニケーションが大切”であり、そこに“多様なソーシャルワークがある(あっていい)”。自己実現や問題を解決する方程式はないため、“MSW がその支援の中で最適化する役割がある”と述べられていました。

次に、「地域での暮らしを支える専門職の役割と立ち位置 ～あなたのその支援、本当に利用者のためになっていますか?～」というテーマで、玉木幸則氏(西宮市社協 障害者総合相談支援センターにのみや センター長)の基調講演に参加。玉木氏は、NHK E テレ(毎週日曜 1900～)障害者情報バラエティ「バリバラ」にレギュラー出演中で、自身も脳性まひで障害者・当事者であり、その方々を支援する専門員でもあります。家庭や肢体不自由児施設、地域社会の中で浴びてきた障害者としての洗礼を、ユーモアを交えながら時に厳しく現実の生活を語ってくださいました。その中で、「支援者は疾病や障害を固定的にイメージ化してある決まったパターンの生活を強いていくことになりがちではないですか?」という言葉に、心が苦しくなりました。きっと私も業務の中でこのような視点がどこかにあり、“あるパターンにあてはめる”ことをしてはいないかと。この中で、MSW をお願いしたいこととして、心の壁・制度の壁・情報の壁・物の壁の 4 つの壁を取り除く活動をしてほしいとありました。主体は利用者にあるが、私たち専門職が時にそれを邪魔してはいないか。どうしたら、利用者が主体性をも

って決めることができるのか、考えることができるのか、理解するのか、そこにMSWが必要だと強調されていました。

1日目の最後は、情報交換会へ参加してきました。さが県協会MSWの皆さんの“おもてなし”に感銘を受けながら、美味しい食事にお酒、そして和太鼓やフラダンスといったアトラクションに感激したことを少し酔ってはいましたが覚えています。そして、各県からの“余興”ということで、私たち沖縄県団として、な～んにも準備も考えももちろんなく、即興で「かじゃでい風」を披露しました(笑)。もちろん扇子もないためお皿を持って、先頭に立って登場したさすがの樋口さん、間際までYouTubeをみて確認していた嘉陽さん、恥ずかしがりながらも勇ましく披露した宮城さん、嫌だ～やらんでおこ～とゆっていた望月さんも舞台上がってくれたこと(笑)。優雅な舞を披露した高江洲さん、酔っ払ってお箸入れのバスケット！？を琉装に見立てて被る私、この研修の一番の収穫だったかと思っています。

2日目の午前、ワークショップ「認知症の人を地域で支える街づくり～MSWにできること～」、猿渡進平氏(厚生労働省 地域生活支援推進室)へ参加しました。ここでは、地域包括ケアシステムの推進のなかで、認知症の人をどのように街で支えるかを、猿渡氏が実際に大牟田市で取り組んできた活動の報告があり、その後ワークショップを行いました。その中では、地域包括ケアについて考えたり、それぞれの地域での課題を挙げ、そして「私たちが出来ること」を各県MSWと一緒に語り合いました。自分の地域の足元を見つめ、周り・組織で何を行っていくべきなのかを考えることができました。地域包括ケアを実現するためには、もっと病院が地域に入っていくことが必要なのかな・・・。

午後は各カテゴリー別に研究発表が行われ、私はソーシャルワーク実践にて「自己決定の過程を支援する～生き方を決めるのはだれ?～」というテーマで、回復期リハ病棟で支援した2ケースを振り返っての報告をしました。準備不足が否めず、時間を告げるベルがなり、後半焦って端折ることになってしまった点が反省です。

閉会式を終え、TSUTAYAが運営する武雄市図書館を観光しました。残念ながら観光はこのくらいでした。博多へ向かう途中、電車にパソコンを忘れるというハプニングもありましたね(笑)。でも、戻ってきたのでホットしました！

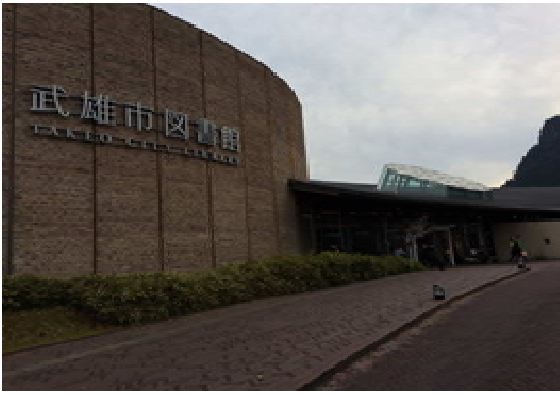
この場を借りて、さが県協会の温かいおもてなし、そして、発表の機会を半ば強引に当ててくださった協会にも感謝です！



(懇親会の風景)



(沖縄県団)



( 観光してきたよ～ )

## 定例会報告

『速やかで穏やかな入退院支援・連携デザイン～豊島区在宅医療相談窓口の実際～』

大浜第二病院 真栄平 結

平成27年12月19日(土)豊島区医師会医療ソーシャルワーカーの武山ゆかり先生をお招きし、MSW12月定例会兼研修会が行われました。

豊島区での全国でも先駆的な取り組みとして委託事業として、医師会へ豊島区在宅医療相談窓口を置き、また口腔ケア保健センター内に豊島区歯科相談窓口が開設されており、市民からの医療に関する相談を受け付け、情報提供や広報啓発、連携構築に取り組んでいることから、地域包括ケアシステムの構築が謳われる中で、在宅のMSWは非常に重要な役割を担っていることが感じ取れました。病院に所属するMSWとしても介護度の重い方や医療ニーズのある方の退院の際に、在宅でこのような医療と福祉の繋ぎ目のような存在があると、よりスムーズな連携が図れ、穏やかな退院支援が行えるのではないかと感じました。

またSNSを利用した情報共有ツールの活用も先駆的に取り組まれており、患者様のタイムラインを共有することで、在宅で過ごされている難病の患者様の安心感につながり、多職種連携の観点からも一つの記録をタイムラグなく把握できるという有用性があることが分かりました。

MSWだけでなく他職種の参加もあり、グループワークでは様々な視点から意見が飛び交い、大変勉強になる有意義なものとなりました。今後、「だれもが安心して過ごせる地域包括ケアシステム」の構築に向けて病院が地域の社会資源として果たせることを考えながら、皆が在宅で過ごすことをあたりまえに感じられる社会を支える一員となれるよう、日々研鑽を積んでいこうと思います。



# 平成27年12月運営委員会議事録

開催日時：2015（平成27）年12月21日（月）18：45～

出席者：樋口（司会）、安慶名、望月、奥平、當銘、伊禮（記録）

## 研修部より：望月（ハートライフ病院）

12月19日 定例会

武山 ゆかり氏（東京都豊島区医師会在宅医療相談窓口担当）

参加者33名

～その他研修等は別記参照～

### 報告事項

- ・九州協議会研修部会（会長会合同）：今後中堅者研修の予定
- ・中部地区在宅医療ネットワーク研修会 1月26日（火）19：00

## 広報部：代理 / 當銘

- ・ 広報紙・・・1月号担当：MSW 山里（南部徳洲会病院）フォロー：新城（小祿病院）

## 事務局：當銘（大浜第一病院）

- ・ 新規入会、退会なし。
- ・ 保証人マニュアル購入済み（20冊） 先着1冊500円。

### 後援依頼

- ・ 「がん患者さんご家族をつなぐ在宅療養ガイド」を使いこなすための研修会  
日時：平成28年2月14日（日）  
場所：沖縄県医師会館（3階ホール）（予定）
- ・ 「重症心身障害児者といわれる方々と共に生きる会 in 沖縄」  
日時：平成28年1月31日（日）10：00～16：30  
場所：那覇市ぶんかテンプスホール



## その他

第4回沖縄県ソーシャルワーカー学会 当協会から3演題決定

沖縄県医療推進協議会の開催について

日時：平成27年12月18日（金）19：00

場所：沖縄都ホテル

議題：1. 本国民運動の目的に沿った内容の決議の採択

家族から、医療機関のMSWの業務についての意見が事務局宛にあった。  
当該病院に申し送り、対応を依頼した。

次回理事会：1月18日（月）18：30～司会：當銘 書記：奥平 連絡係：泰

## 研修部の平成28年1月の予定

### 定例会

平成28年1月20日（水）18：00～20：30

場所：住宅型有料老人ホームはーとらいふ 1階 デイサービス（西原町字小那覇1606番地）

内容： ソーシャルワークデータシステムについて

公益社団法人日本医療社会福祉協会「MANBO」実演

（Medical Assets Network Board）

伝達講習となります。説明者：ハートライフ病院高澤氏

「HOW to 神経難病～介護保険編～」

実践に役立つ知識や、MSWが知っておくべき知識を楽しく教えていただきます。

講師：県立中部病院神経内科副部長 神経内科専門医 金城正高先生

### めだかの放課後

日時：平成28年1月14日（木）19：00～21：00

場所：中頭病院 2階会議室（沖縄市知花6-25-5）

内容： 共同研究について

県委託事業の打ち合わせ

学会・研修会等の参加報告

その他



### めだかの学校

日時：平成28年1月12日（火）19：30～20：30

場所：ハートライフクリニック2階会議室

内容：地域包括支援センターの役割について（仮）

講師：宜野湾市地域包括支援センターふてんま

センター長 大嶺 洋氏

今月の「はいさいワーク」、「会員の動向」はありません。

## コラム ある日の相談室

～理屈と感情～番町皿屋敷に学ぶ～

担当：K・H

一応まじめな話である。

私のMSW援助としての教科書に「番町皿屋敷」がある

繰り返すが本当にまじめな話である。

いわゆるお菊さんである。お岩さんがメジャーすぎて知らない方もいると思うが、要約するとお菊さんが奉公先の主人に言い寄られて断ったことを逆恨みされ、家宝のお皿を割ったという無実の罪をきせられて井戸で自害してしまう。それからその家では夜な夜な皿を数えるお菊さんの幽霊が出るという話である。話の内容は知らなくても「一枚～、二枚～...九枚～一枚たりぬ～」とうくだりは聞いたことがある人は多いのではないだろうか、

さてこの話、続きがあって主人の家が潰されて空き家になっても相変わらずお菊さんは夜な夜な出てくる、幾人のお坊さんが成仏するようお経を唱えてもそれでも出てくる、出ては数え、そしておいおいと泣き続ける。

ある日、噂を聞いたあるすごく偉いお坊さんが成仏させようお菊さんに対面する。お経を唱えてもいっこうに成仏する様子がない、一所懸命心を込めて唱えても成仏しない、何十日も唱えても泣くばかりで成仏する気配すらない、さすがにこりゃだめだなと諦めかけた時にそのお坊さんは不思議な夢を見る。徳の高そうな小さな子どもから「機」という言葉をもらうのであるが、それは機会の機、機転の機、機微の機である。

その夜、変わらずお菊さんは井戸に現れ「一枚～、二枚～、三枚～...九枚～」まで言った瞬間、お坊さんは大声で「<sup>とお</sup>干」と叫ぶとお菊さんは「あらうれしや」とあっさり成仏するのである。

お経は突き詰めると物事の「理屈」「正論」である、だが、その理屈や正論をいくら唱えてもその人が大切（執着）にしている感情そのものを手当しなければ決して届かない。

MSWの仕事をしながら対応に迷った時にはお菊さんを胸に「機」を心がけている。

ねっまじめな話だったでしょ

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ  
<http://www.msw-oaswhs.jp/>

## 編集後記

今年の冬は暖かいですね。なかなかジャケットの出番がありません。  
当院の今年最大のイベント、JCIを受審しながら、初めてのMSWニュース作成に慌てました。  
忙しい年末のなか原稿を引き受け、優しく対応してくださった皆様ありがとうございます。  
皆様にとって良い一年になりますように 今年もよろしくお願いいたします

